

共に生きるために



2023^{年度}事業報告書

April 1, 2023 - March 31, 2024



学校法人 アジア学院



50周年記念式典にお集まりくださった皆さま（9月）

ごあいさつ

2023年度はアジア学院の50周年に当たり、私たちは国内外の支援者の皆様、また卒業生と共に50周年を盛大に祝うことができました。それは感謝に満ちた大いなる喜びの時であり、また同時にアジア学院の未来について深く考える貴重な時でもありました。50周年を機に私たちは「共に学ぼう、農村の未来のために」という大きなテーマを掲げ、「土からの平和」、「フードライフ」、「気候正義と気候変動対策」、「教育」、「組織」という5つの分野から総合的にアジア学院という学び舎を発展させていく決意を新たにしています。これらのビジョンを具体化し、広がりをもたせるプロジェクトがすでにいくつも始動しています。それらに対して多くの財政的なご支援をいただき、未来の農村指導者たちのためにキャンパスが日々進化していることをとても嬉しく思います。

一方で、世界の各地で起きている紛争や対立を反映して、2023年度の学生たちは例年にも増して多くの困難を抱える地域から集められていました。ミャンマー、カメルーン、東北インドのマニプル州など、紛争のただ中にある地域や、数年間無政府状態が続くハイチなど、非人道的な暴力が横行する国や地域からやってくる学生たちは、地域のリーダーとしてより深刻で複雑な課題と重い責任を負っているようにも見えました。それでも、アジア学院での学びによって、より

実効的なリーダーシップを発揮する世界中の卒業生たちから日々寄せられるポジティブな報告に励まされ、学生も、ボランティアも、スタッフもより研修に力が入ったのも事実です。

グローバリゼーションや地球温暖化の影響に加え、民族、宗教等の複雑な対立の構造も絡む農村地域社会の課題の解決の糸口はそう簡単には見えてきません。しかし、だからこそ、まずは人々の、そして自分自身の内なる声に耳を傾け、共感し、癒すことに重点を置き、関わる全ての人々が強められ成長することを目指すサーバントリーダーシップなくしては、地域コミュニティの団結と平和的な発展はありえないと、これまで以上に思います。こうしたアジア学院のリーダーシップ養成の哲学と価値観に共鳴し、共に歩んでくださる皆様に感謝して、ここに2023年度の事業報告をお届けしたいと思います。



山本 俊正
理事長



荒川 朋子
校長

目次

2023年度ハイライト	
アジア学院創立50周年	4
農村指導者を育てる - 教務課 教務、学生募集	
自己変革からコミュニティ変革へ	6
学生募集の課題	8
学びのコミュニティ - 教務課 共同体生活	
アジア学院サンデー - 教会との交わり	10
ボランティアに感謝	11
開かれた学びの場	
- 募金・国内事業課 オープン・ラーニング・プログラム	
個々人の成長に貢献	12
食べものと命を育む - フードライフ課	
気候変動と共に	14
主な農産物の生産量と過去5年間の推移	15
サポーターと共に	
- 募金・国内事業課 支援者サポート、販売、国際関係課	
50周年で支援の輪が拡大	16
アジア学院北米後援会地域拠点プログラム開始	17
販売品の生産力が好調	
卒業生とのつながり - 卒業生アウトリーチ課	
50周年記念式典に参加した卒業生たち	18
卒業生の活動報告	19
会計報告	20
農村指導者研修プログラム・カリキュラム	22
コミュニティメンバー 一覧	23
2023年度 卒業生	24

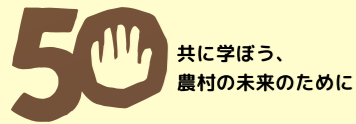
50 アジア学院創立50周年

2023年、アジア学院は創立50周年を迎え、様々な記念事業を行いました。これらのプロジェクトは50周年で終わりではなく、新たなプロジェクトがこれからも同じビジョンのもと続いていきます。

① ビジョンとテーマの策定

2020年冬から始まった創立50周年に向けての準備は、2年の歳月を経てビジョン・ステートメント*が固まり、そこから50周年のテーマが決まり、さらにその実践のためのアプローチとして5つの重点エリアを包括的に進めるホールキャンパスアプローチなどが決まってきました。

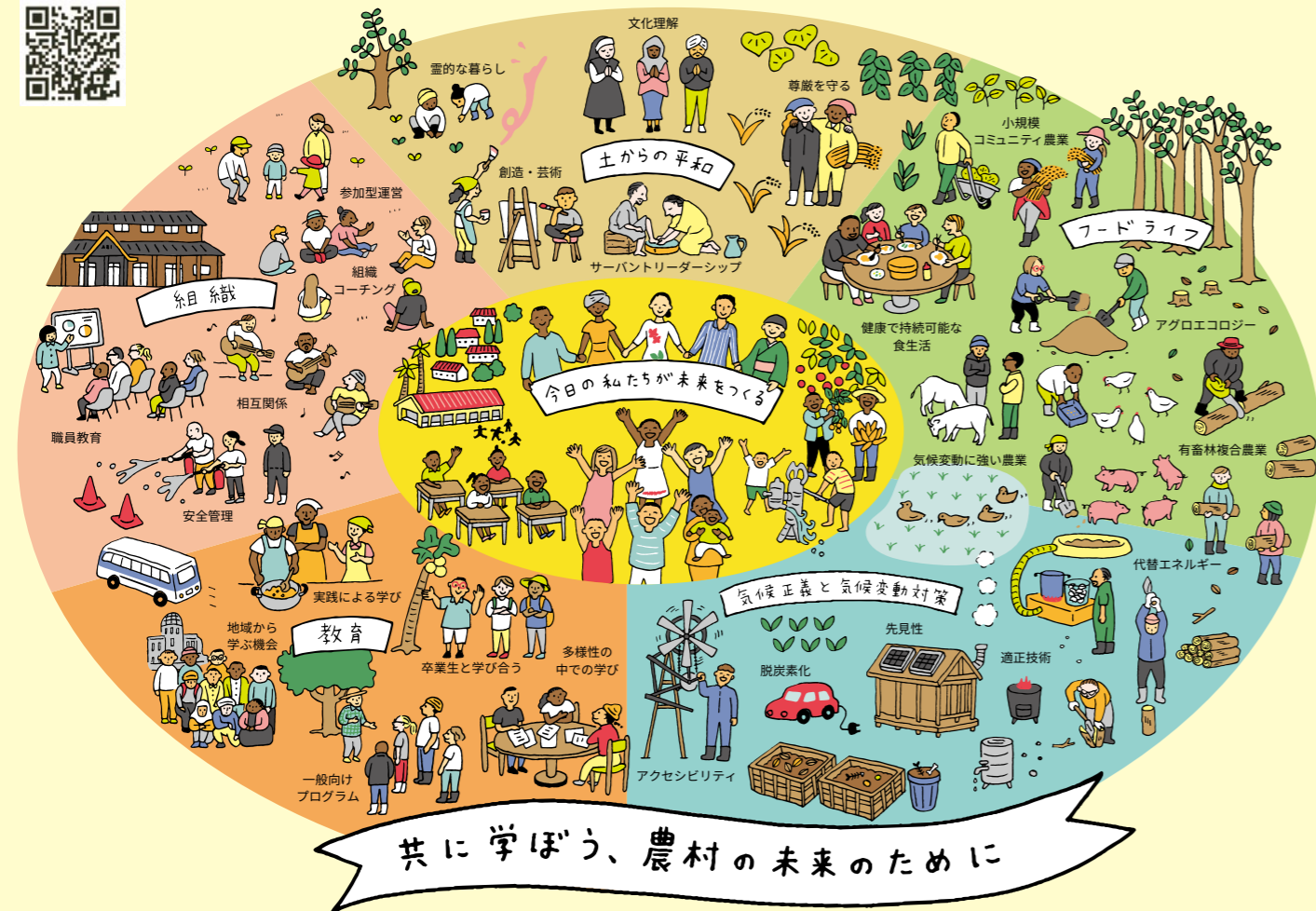
テーマ&ロゴマーク



5つの重点エリア

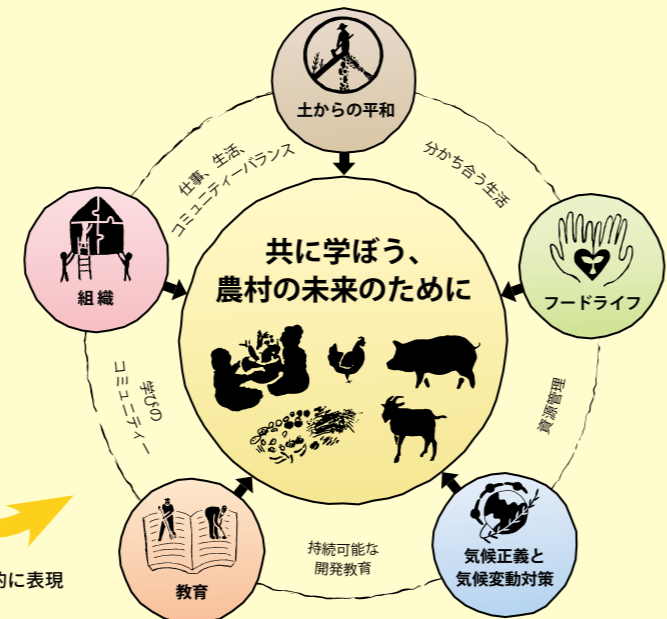
- ・土からの平和
- ・フードライフ
- ・気候正義と気候変動対策
- ・教育
- ・組織

*ビジョン・ステートメントは「アジアの土」2022年4月号(QRコード参照)に掲載されています。



共に学ぼう、農村の未来のために

2023年に発表したホールキャンパスアプローチのイメージ図



視覚的に表現

2021年に発表したホールキャンパスアプローチのイメージ図

イラストでさらに親しみやすく！

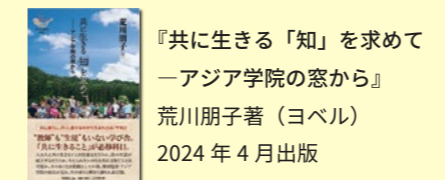
策定されたビジョンとテーマにもとづいて、様々なプロジェクトを実施しました。

② 50周年特設ウェブサイト開設



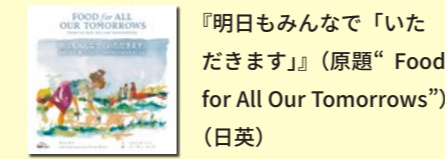
記念募金の呼びかけや、卒業生・サポーターからのお祝いメッセージ、アジア学院の歴史などを紹介する特設サイトを期間限定で公開しました。(2024年3月末日終了)

③ 荒川朋子校長の書籍出版



荒川朋子校長の入学式、卒業式の式辞、記事などをまとめた本が出版されました。

④ 英語俳句絵本出版・原画展開催



アメリカ人支援者で児童文学者のジョイス・レイさんがアジア学院の生活をもとにした英語俳句と、スーザン・ロックさんの水彩画をまとめた絵本が出版されました。

また、10月3日から18日まで大田原市の hikari no café 蜂蜜小珈琲店で絵本の原画展をジョイスさんと開催しました。

⑤ ドキュメンタリー映像制作

アメリカ・ミシガン州の Goshen College コミュニケーション学科の Kyle Hufford 准教授と学生15名が、5月に2週間滞在し、30分のドキュメンタリーと4分のプロモーション動画を作成しました。(未公開)

50周年記念募金ー目標額2000万円達成

ご支援くださった皆様に心より感謝申し上げます

2022年度と2023年度の50周年記念募金への寄付金の合計額(国内のみ)が21,833,767円に達しました。そのうち、2回に渡って実施したクラウドファンディングでは、1回目(7月1日~20日)が目標50万円を大きく上回り103万円を達成。続く2回目(9月16日~10月31日)も目標300万円を達成することができました。

⑥ 卒業生オンライン同窓会

卒業生に加え、元ボランティアや元職員を招いてオンライン同窓会を行いました。4月から6月の間に全6回、延べ約240名が集結し、近況報告の他、懐かしい思い出、卒業後に役に立った学びなどを分かち合いました。



⑦ 9月16日(土) 記念式典



支援者、関係者、海外からの卒業生とその家族をお迎えして、総勢200名がコイノニアの食堂に集まりました。50周年記念礼拝ではロバート・ウィットマー牧師(カナダ合同教会宣教師)の説教、記念プログラムでは卒業生を代表してオルデンドゥー・チャタジー氏(インド、1978年卒)から記念スピーチをいただきました。色とりどりの衣装に包まれた多国籍の人々、多くの国の料理や歌、祝いのメッセージの数々。賑やかに、楽しく祝いの祝典が催されました。

⑧ 学校林遊歩道整備

東日本大震災以来、積極的に整備をすることができないままだった学校敷地内の学校林(2ha)の整備を再開しました。学校林を3つのゾーン(自然体験の森、有畜林複合農業の森、気候変動対策の森)に分け、さらに学校の敷地を取り囲むように遊歩道を整備しました。ゾーンの目的に応じて植林も始まり、今後も整備を継続していきます。



⑨ 山羊・豚・鶏舎の案内板設置



キャンパスの施設をより開かれた、また教育的に意義ある場とするための一環として、各畜舎の前に、家畜の生態について親しみをもってもらえるようなかわいいイラストの看板を設置しました。2023年度ボランティアの2名が制作しました。

その他・5つの重点エリアに関連したプロジェクト

- ・ごみ組成調査
- ・全館LEDライト設置
- ・教室の「太陽光発電ー蓄電ー消費の見える化」システム工事
- ・オフグリッドハウス(2024年5月完成)
- ・土のオープン

農村指導者を育てる

教務課 教務、学生募集



「アジア学院で学ぶということが、私にとってコミュニティ作りにおける新たなスタートとなりました。ここでさまざまな経験と知識を得たことは、私の自信につながっています。もちろんこれからも多くの困難が待ち受けていることでしょう。でも私の中には芽生えを待つ種がすでにあります。それをしっかりと育てていくつもりです。」



アンジェラ・ラトナ・サリ・ピウ
(インドネシア)

真剣な眼差しで授業に臨む学生たち(4月)

自己変革から コミュニティ変革へ

農村指導者養成プログラム報告



大柳 由紀子
副校長・教務主任

2023年度は、4年ぶりにほぼすべての学生が3月末に来日、研修に全日程参加できる年となりました。12月に、3か国26名の本科生が無事研修を終えました。この研修を物心両面でお支え下さった方々に感謝します。

困難に立ち向かう

学生たちにとって、9か月の研修は簡単なものではありません。自分の村を離れ、家族や友人と離れ、異なる環境に中々適応できない学生もいました。気候も食事も乗り越えるべき壁となった学生たちがありました。英語でのコミュニケーションがとれなくて呆然とする姿も目にしました。国での状況の悪化に悩む学生もいました。職員を含む人々の中でリーダーシップをとるなど今まで考えもしなかった学生もいます。それでも職員に背中をおされ、クラスメート同士支え合い、ボランティアや研究生の皆からはげまされながら、学生たちは9か月、1892時間に渡る研修期間を完遂いたしました。

様々な学び

アジア学院の学びは多岐にわたります。座学では、指導者論や持続可能な農業、開発論について学びました。農業関連の実習は500時間を超え、学院で食べる野菜も米も肉も卵も自

給し、調理しました。学生たちはそれぞれの作業においてリーダーシップをとることによって、座学で学んだことを実践を通して身に付けていきました。学内で学べないことや、別の視点からの学びを得るための学外見学研修は、10都府県で計26日間に及び、総移動距離は5000kmに上りました。加えて内的成長を促すための朝の集会やコンサルテーション、自分でプロジェクト内容を決める夏期個人研修、学生のリーダーシップで行われた収穫感謝の日、さらには日本の学校との交流会もありました。今年学院が50周年を迎えましたが、式典では学生たちが中心となって各地域の料理を作りました。式典に参加した卒業生から学ぶことができたのも、今年の学生たちにとっては特別な機会となりました。

自己変革を促す

アジア学院の研修は、リーダーとしての自己変革を促すものです。農村指導者となるために必要な知識や技術、経験はアジア学院が提供しますが、学生たちは自分の意志でその一

つ一つを消化し、自分の物としていきます。いってみれば自分自身が「作り替えられていく」行程が、アジア学院の研修といえるかもしれません。9か月の研修を通して、学生たちは来た頃とは違う考え方をするようになっていきました。例えばサーバントリーダーシップの考え方です。結論を出すのではなく、人々の参加を促し、意見に耳を傾け、人々をエンパワーしながらともにゴールに向けて歩いていくリーダーの在り方が、次第にあたりまえのものになっていきました。それらの自己変革を経て、最終的に学生たちが将来のビジョンとして考えるようになったのは、「女性と若者による、より強靱なコミュニティの構築」「有機農業を通じた農村コミュニティの変革」「自立した持続可能なコミュニティ」といった、コミュニティの変革でした。このことは、学院の研修が学生たち本人のためのものではなく、彼らが帰国後に戻っていくそれぞれのコミュニティのため、地域の人々のためのものであることを、しっかりと表していると感じました。

「私がアジア学院で学んだのは、コネクション（つながり）、あるいはネットワークです。それも表面的なつながりではなく、もっと深くにあるつながりのことです。それは環境でもそう、人間関係においてもそうです。人をケアすること、人を助けることもコネクションであり、ネットワークだと思うのです。」



ジョセリン・カロリナ・コヤゴ・タジャナ
(エクアドル)



1



2



3



4



5

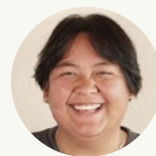
「これまでの最大の学びといえば、堆肥です。堆肥には長期的な効果があり、どの地域でも多くの資源があるからです。見学研修を通して、自分の農民としての視野が広がったと思います。僕は今いる世代のためだけの農民ではなく、未来の世代のための農民でもあるのです。」



ジョフリー・ンベウエ
(ザンビア)

学生募集の課題

学生募集報告



阿部・チャタジー・マノシ
学生募集

アジア学院へ応募した人たちは皆、長い選考過程を経ています。私たちも応募書類を前にして、自問します。彼らの苦悩、喜び、夢は何か？アジア学院の卒業生として地域にどんな影響を与えられるのか？

2024年4月現在、私たちは選考の結果を目の前にしています。2024年の学生は例年よりも少なめです。コロナ感染症の人への脅威は大幅に減少しましたが、組織に及ぼす影響は今も続いています。NGOは未だ、主要な人材が9ヶ月間抜けることによる損失を補う事に苦慮しています。カメルーンやミャンマーでは、紛

争による苦難が絶えません。指導者としての女性の認知も、依然大きな課題です。

この仕事の真価は、協力関係にあります。私たちの仕事は各地の卒業生などの厚意の手助けによって支えられています。さらに、2024年の学生の大半は、卒業生や支援団体を通して紹介されました。私たちは、対象とする草の根の地域との距離を縮めてくれるような関係の強化に努め、今後も良いつながりが続くことを願っています。

(写真)

- ① PLA (参加型学習行動法) ディスカッション (7月)
- ② 収穫感謝の日 (10月)
- ③ 肉加工実習 (10月)
- ④ 50周年記念式典 (9月)
- ⑤ 田植え (6月)
- ⑥ 西日本研修旅行 (11月)



6

学びのコミュニティ

教務課 共同体生活



(教) 竜ヶ崎教会教会でのアジア学院サンデー

アジア学院サンデー 教会との交わり

チャプレン報告



ジョナサン・マッカーリー
チャプレン・共同体生活

アジア学院サンデーを行った教会 (23 教会)

【栃木県】 足利東教会、氏家教会、宇都宮上町教会、宇都宮東伝道所、宇都宮松原教会、小山教会、鹿沼教会、塩谷一粒教会、栃木教会、那須塩原教会、西那須野教会、益子教会、矢板教会、四條町教会 (以上 (教))、鹿沼キリスト教会

【茨城県】 (教) 水海道教会、(教) 竜ヶ崎教会
【群馬県】 (教) 桐生東部教会、(教) 渋川教会、(教) 鳥村教会
【埼玉県】 (教) 埼大通り教会
【東京都】 (公) 聖オルバン教会、(教) 中目黒教会

アジア学院サンデーとは

毎年行われる恒例プログラムで、学生1~2名と通訳が栃木県近郊の礼拝に参加し、分かち合いの時を過ごします。

2023年度の共同体生活の使命は「キリストの愛に根ざす」でした。

アジア学院サンデーの実施は、個人の背景に関わらず、キリストの愛に根ざした学生の育成に重要でした。私たちが歓迎し、御言葉や学生の話聞いて下さる教会はこれまで栃木県が中心でしたが、北関東地方へと範囲を広げ、23教会に上りました。ある教会では、教員が毎日ミャンマーのために祈るようになり、学生はその出会いを通して、帰国する勇気を得ました。

コロナ禍で縮小していた近隣教会との交わりも復活しました。人々と共に過ごす時は、愛の根と地域の結びつきを深め

る良い機会となりました。特に、アジア学院と50年来の関係を持つ西那須野教会は、定期的な学生との交流を心から歓迎してくれました。

アジア学院においても、キリストとその愛に出会う新たな機会が与えられました。毎週の祈禱会には多くの人が参加し、毎日の朝の集いは私たちに深い思いに導き、時には涙することもありました。学院と地域のメンバーによるゴスペルグループ「ミンゴス」は10周年を迎えることができました。

1年を振り返ると、私たちは本当に深く、キリストの愛に根ざすことが許されていたことに気づきました。

参加者の声 (教員・牧師)

「アジア学院の学生が大変な状況にあっても、とても励まされる力強い証をしてくれたことを、主に感謝しています。」

「外国のキリストにある兄弟姉妹と礼拝ができて、礼拝を新鮮に感じました。」

「海外の教会の様子を聞き、日本のキリスト教の状況を深く考える機会になりました。」

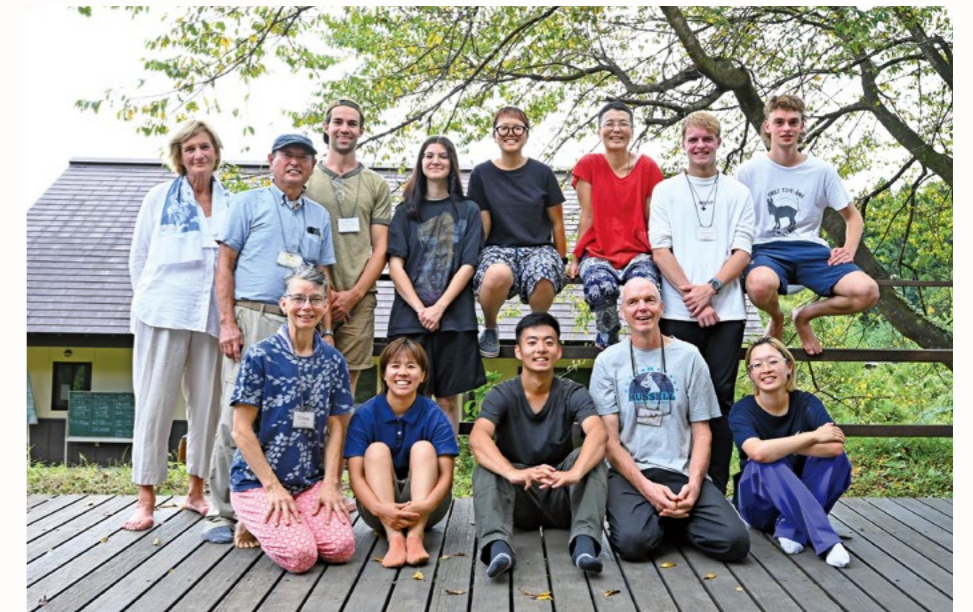
ボランティアに感謝

ボランティアコーディネーター報告



江村 悠子
総務課
ボランティアコーディネーター

アジア学院はボランティアたちの働き無しには成立しません。2023年度の長期ボランティアは、経験豊富な60代の夫婦、人生の方向性を探る20代、高校を卒業したばかりの18歳など様々な層の人々が、日本、ドイツ、米国、オーストラリア、マレーシアから集いました。農場、キッチン、オフィスでの仕事はもちろんのこと、自主的なイベントの開催や日々の会話によってコミュニティを盛り上げ、進んで知識や経験を分かち合い、また積極的に学び成長する姿勢によって学生たちに刺激を与えてくれました。



2023年度の長期ボランティア

2023年度ボランティア・インターンのべ人数

長期ボランティア 20名

夏季インターン 9名

通いボランティア 28名

海外ボランティア派遣団体

【ドイツ】 連帯のための宣教会 (EMS)、Social Peace Service Kassel, e.V. (SFD)
【米国】 Brethren Volunteer Service、合同メソジスト・ボランティア・イン・ミッション

インターン派遣団体

【米国】 プリンストン神学校、セントオラフ大学、ウェルズリー大学、ウィルミントン・カレッジ
【日本】 ウェスレー財団、国際基督教大学、摂南大学

ボランティア・インターンの声

「私は社会の矛盾に対する怒り、無力感を感じていましたが、アジア学院での9か月を通して、農作業で汗を流したり、絵を描いたり、お菓子を焼いたり、小さなこととしても好きなことで自由に自分を表現すること、他の存在への想いがつなげたとき、自分の奉仕の形だと気づき、自信になりました。」



酒匂 榛
長期ボランティア
(日本)

「私たちは大豆畑で共に働き、納豆を発酵させる方法について考え、大いに盛り上がりました。また、共に桑の実を収穫しながら笑い合い、果汁が発酵していく様子を観察しました。こうしたコミュニティと食の体験は、私の将来のビジョンの一部となりました。」



デクラン・ミード
長期ボランティア
(オーストラリア)

「『遅咲き』とは、『自分の可能性に気付くのが遅い人』だと定義されます。アジア学院に来るまで、私は自分のゆっくりした歩みを長所だとは思いませんでした。しかし、農業の意図的で着実な過程を知り、自分のタイミングで花を咲かせることの大切さを教えられ、何かを新しく始めるのに遅すぎることはないと感じました。」



クレメンタイン・スターク
インターン
(ウェルズリー大学、アメリカ)

開かれた学びの場

募金・国内事業課 オープン・ラーニング・プログラム

個々人の成長に貢献

オープン・ラーニング・プログラム報告



山下 崇
募金・国内事業課長
教育プログラム・
那須セミナーハウス主事

「Open! 安心、自然体、ワクワク、帰ってこられる場所」をテーマにプログラムを行いました。

アジア学院のミッションにある「自らの潜在能力を発揮する」ために、自然体でいられる安心した場所をつくり、アジア学院で新たなワクワク体験を提供していくことを目指しました。

7月に学院内でコロナ感染が起きてしまい、予定していたプログラムを中断しなくてはならなくなった時には涙を流すほど悔しい思いもしました。しかしながら、様々な企画を行い国内外から多くの参加者にきていただき、その声を聴く中で、オープン・ラーニング・プログラムが彼らの成長のために貢献できていることを強く感じる事ができました。

(写真)

- ① キャンプでの気づきを共有する高校生
- ② 食べものと命を考えるグループワーク
- ③ キャンプでの学びを表現したカラフルな成果物
- ④ 有機肥料について学ぶキャンパーたち
- ⑤ ポカシ肥作り
- ⑥ インド・ナガランド州の文化を体験
- ⑦ アジア学院の食材でインドカレー作り
- ⑧ 「ヒューゲルカルチャー」について学ぶ



「ここではみんながちがってジャッジしない雰囲気がある。
“自分らしくあることの大切さ”に気付けた。」 (大学生・女性)

「最高の3日間!こんな濃厚で学ぶことが沢山
あるとは思ってなかった」 (高校生・女性)



「仲間と有意義な対話ができただ。
将来の指針が与えられた。」 (大学生・男性)



「アジア学院は受け入れ、受け止め、全員がまるで
“土”のようだった。」 (社会人・女性)



「豚の世話をした後、
ありがとうと心で唱えながら調理した。」 (大学生・女性)

「どのように生きるか、どんな人になりたいか、
答えが出たような気がした。」 (大学生・男性)



スタディキャンプ参加団体：24 団体

【日本】 フェリス女学院大学、文京学院大学、日本写真芸術専門学校、国際基督教大学、国際基督教大学高校、自由の森学園高校、JELA、明治学院大学、2002 年アジア学院同窓会、新島学園短期大学、恵泉女学園大学、学生キリスト教友愛会、同志社大学居住研究会アジア学院プロジェクト、聖心女子大学（オンライン）、サレジオ志学院、佼成学園女子高校、星の杜学園高校、桜美林大学、京都精華大学、パーマカルチャーデザインコース、YMCA、共愛学園高校

【米国】 Goshen college、iLEAP

ワーキングビジター（個人短期滞在者）：のべ 84 名

食べものと命を育む

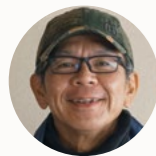
フードライフ課



じゃがいもの収穫

気候変動と共に

フードライフ課報告



櫻井 将伸
フードライフ課
農場長

例年通り 2023 年も、アジア学院はニンジンの栽培を、7 月後半から 8 月にかけて畑に直接タネを播くことから始めました。しかしその年の夏は酷暑の日が長く続き、生育初期、とくに発芽に際し多くの水を必要とするニンジン栽培において、芽が揃って発芽しないという深刻なダメージを被りました。もちろん播種後はきちんと水やりもしたのですが、強烈な太陽の日差しですぐに畑の土が乾いてしまい、十分な水分量がタネに吸水されなかったようです。芽が出ていない場所に何度も種播きをすることになり、3 年分は十分にあったらと思う程度のニンジンのタネを全部使い果たしてしまいました。

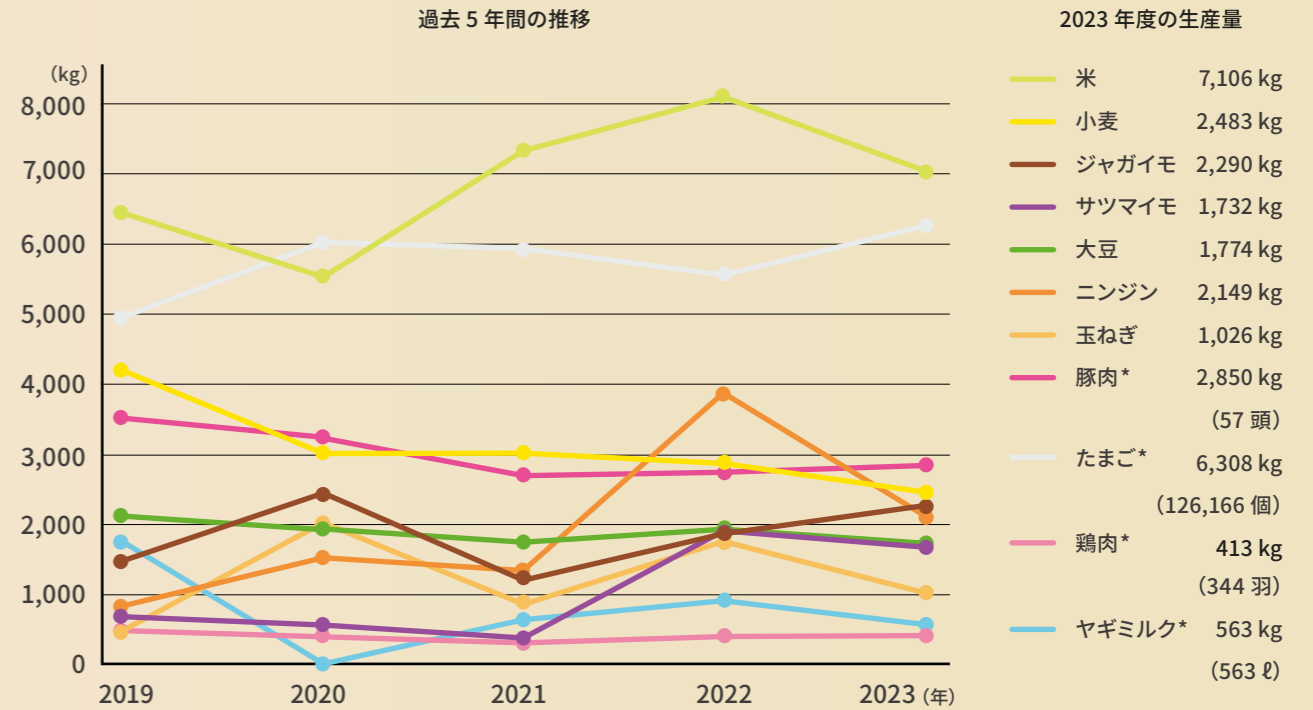
水と太陽の光と土のバランスが崩れると植物は多大な影響を受けます。これを少しでも緩和するためにも適正な栽培管理をする必要があると考えます。例えば

播種や本畑への植付け時期を数週間単位で早めてみるとか、環境の変化に適した栽培品種を導入するなどの工夫が大切になってくるものと思われます。

畜産部門においても、夏の暑さは大変でした。豚も鶏もヤギも、暑さで体調を崩すものが出ました。気候変動の影響を一番に受けるのが農業であることを実感する夏となりました。一方で、学生たちにとって、農村で現金収入源となる畜産を学ぶことは非常に重要です。どのように地域で手に入る資材を活用し、またどのように環境の変化に対処しながら畜産を続けていくのかを、学生たちとともに学び続けたいと思います。

2024 年もアジア学院のチャレンジは続きます。

🍌 主な農産物の生産量と過去 5 年間の推移



* 豚肉 1 頭 = 50kg、たまご 1 個 = 50g、鶏肉 1 羽 = 1.2kg、ヤギミルク 1 ℓ = 1kg として算出。

野菜・作物

夏の暑い中、学生やボランティアの皆さんがニンジンの播種をしました。細かな手作業でしたが、楽しく会話を弾ませながら互いを励まし合いつつ行いました。その甲斐あって 11 月の終わりから 12 月にかけて 2,148kg のニンジン収穫し、ニンジンジュース 5,449 本を生産することができました。

畜産

- ヤギ飼育において、研究生によって新しく搾乳台や草架（餌である草を入れておく台）がリニューアルされました。
- 50 周年記念事業の一環として、畜産について説明をするかわいい説明板が畜舎や放牧場の前に設置されました。（P.5 参照）

FEAST（給食・食育）

- 学生の個人プロジェクトでは、食品加工をする人も多くいました。パン、ドライ野菜、ヤギのチーズなど、学生、ボランティア、職員が一緒になって教えあい、学びあう雰囲気ができました。
- 毎日多くの人がキッチンを入りしました。食事作り以外にも、学びのため、楽しみのため、食材を有効活用するため。その皆の働きによって支えられた 2023 年でした。



金森 郁美
フードライフ課
FEAST（給食・食育）

食堂で提供した総食数：
45,100 食

主な食材の消費量：	
米	4,689 kg
小麦	925 kg
大豆	47 kg
玉ねぎ	1,026 kg
豚肉	1,102 kg
鶏肉	290 羽
卵	24,000 個
ヤギミルク	563 ℓ

外部からの購入：
582,277 円
1 食あたり 12.9 円
(全国平均 239.6 円*)

* 総務省家計調査（2023 年）に基づく 4 人世帯の 1 ヶ月の食費平均である 86,245 円を 4 で割り、さらに 1 ヶ月 90 食として 90 で割った金額により算出。

サポーターと共に

募金・国内事業課 支援者サポート、販売、国際関係課

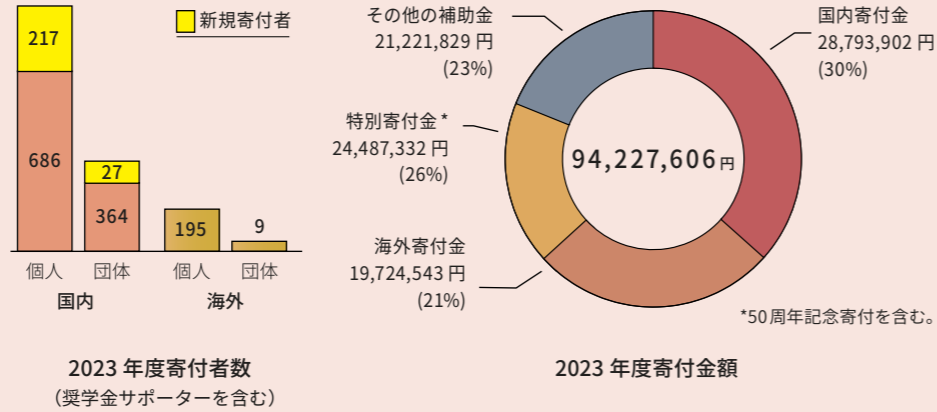


50周年記念式典では、特に多くご支援くださった方々に感謝状を贈呈

50周年で 支援の輪が拡大 国内支援者サポート報告



江村 悠子
募金・国内事業課
支援者サポート



50周年をきっかけに、今までアジア学院に関心のあった方やかつて関わりのあった多くの方に、初めて寄付という形でご支援いただきました。寄付、書き損じはがき、お手伝い、お祈りなど様々な形でアジア学院の働きを共に担ってくださった皆様に、心より感謝いたします。



7月には4年ぶりにフジロックフェスティバルのNGOヴィレッジに出展し、広く社会課題に関心のある若年層にアピールしました。

10万円以上のご寄付をくださった団体 (順不同)

国内支援団体

奨学金

- (一財) 新倉会、東京南ロータリークラブ、(一財) JELA、日本基督教団、(カ) 聖心会、(カ) 聖コロンバン会、日本キリスト教協議会、(一財) アジア農村交流協会、(公信) 久保田豊基金、(公財) ウェスレー財団

諸団体

- (公財) 森村豊明会、(公財) あしぎん国際交流財団、全国友の会中央部、高崎友の会、(公財) 全国友の会振興財団、東京霞ヶ関ライオンズクラブ、ワールドファミリー基金、(医社) サマリヤ会、(宗) 立正佼成会那須教会、立正佼成会一食平和基金、立正佼成会那須りん

海外支援団体

奨学金

- アメリカ福音ルーテル教会、カナダ合同教会、合同メソジスト教会世界宣教

諸団体

- アジア学院北米後援会 (AFARI)

- どうの会、GIC ジャパン、(株) ひらく、学生キリスト教友愛会、ハブサドットコム

学校

- (学) 女子学院、青山学院中高等部、(学) 青山学院、国際基督教大学高等学校、(学) 横浜共立学園

教会

- (教) 久美愛教会、(公) 聖三一教会、東京ユニオンチャーチ、国際基督教大学教会、(公) 聖オルバン教会、(教) 西那須野教会、(カ) 煉獄援助修道会、横浜ユニオン教会、(教) 中目黒教会

教会

- アメリカ福音ルーテル教会、米国合同教会・キリスト教会共同世界宣教、カナダ合同教会、合同メソジスト教会世界宣教

アジア学院北米後援会 地域拠点プログラム開始

国際関係報告



シェリー・デレオン
アジア学院北米講演会 (AFARI)
事務局長

アジア学院北米後援会 (AFARI) は、アジア学院での学びを卒業生の地域に届ける手助けと、卒業生間のネットワークの拡大を目的として、地域拠点プログラムを2年前に立ち上げました。卒業生を ECHO* の会議に集め、技術の向上とネットワーク作りを支援するのです。

ECHO のシンポジウムはアジア学院の教を非常によく補完しています。ワークショップと教材では、アジア学院で学んだことを基礎としながら、各卒業生の地域に即した技術的・応用的なツールを提供しています。また地域拠点プログラムは、卒業生同士や同じ分野の専門家たちとの交流の場にもなっています。

昨年10月にはタイ・チェンマイでプログラムを開催し、5カ国9名の卒業生が参加しました。AFARI は年に1~2回、東または西アフリカとアジアでこのプログラムを開催しており、これまでに12カ国17名の卒業生が出席しました。



チェンマイの ECHO 会議に出席した卒業生

「自分のホーム(アジア学院) や共に卒業した仲間を思い出し、とても良い時間を過ごしました。…ECHO のプレゼンテーションは、農業、霊性、栄養、水、衛生、環境、健康、ジェンダー、若者、子供など、コミュニティ開発のあらゆる側面に触れています。現地を視察する機会もあり、魚の養殖や持続可能な農業を行っている団体を訪問しました。」



セシリア・ムビグナ
(マラウィ・2016年卒業生)

*ECHO (エコー) : 世界の飢餓撲滅のため、特に農業分野で活動する人材を育成するキリスト教主義の教育機関。アメリカ・フロリダ州に本部を置き、タイ(チェンマイ) にアジア・インパクトセンター、タンザニアとブルキナ・ファソにそれぞれアフリカの地域インパクト・センターをもつ。



「収穫感謝の日」で出店



佐藤 裕美
募金・国内事業課
販売

販売品の生産力が好調

販売報告

にんじんジュースの2023年1月の入荷量は過去最多の6,000本超でした。プロモーションを実施し、多くの方に楽しんでいただくことができました。

また、卵の市場価格が高騰し続けたため、アジア学院の卵の価格が相対的に安価となり、秋から冬にかけて需要が高まりました。養鶏部門での活動が順調であったため、年間を通して安定して供給できました。

2023 年度売上実績

1位 卵	2,898,535 円 / 約 96,500 個
2位 豚肉	2,511,546 円 / 1.8t、45 頭
3位 にんじんジュース	2,303,750 円 / 約 5800 本
4位 クッキー	1,867,515 円 / 約 4,600 袋
5位 米	1,501,100 円 / 2.5t
上位5品目の合計	11,082,446 円 (販売総収入額の 85%)

卒業生とのつながり

卒業生アウトリーチ課



来日した卒業生と家族が集合

50周年記念式典に 参加した卒業生たち

卒業生アウトリーチ報告

多くの卒業生が50周年式典の際に来日を希望し、私たちもそれに応えなかったのですが、世界各地から何百人もの卒業生を連れてくることは財政的にも実働的にも不可能でした。そこで、私たちは次の策を講じました。卒業生だけでなく、元ボランティアや職員をオンライン同窓会に招待したのです。それでも、どうしてもアジア学院に来たいという卒業生もあり、11人の卒業生が自費で、家族を連れて日本まで来てくれました。

到着後、彼らはすっかり変わってしまったキャンパスの様子を目の当たりにしましたが、すぐに自分たちが学生の時に経験したコミュニティの感覚と多様性がまだ息づいていることに気が付きました。式典の翌日、キッチンでは卒業生たちがそれぞれの国の郷土料理を用意し、賑やかな声が響きました。このために特別にスパイスや食材を持ってきた人もいました。

しかし、それ以上に重要だったのは、学生と卒業生の間に生まれた友情でした。彼らは夜遅くまで語り合い、過去と現在



スティーブン・カッティング
卒業生アウトリーチ課

のアジア学院の生活について分かち合いました。卒業生たちが学びをどのように活かしているのかについての特別なセッションも企画され、卒業生のメンターたちからインスピレーションや指導を受ける、滅多にない良い機会となりました。



式典後日の卒業生プレゼンテーション

卒業生の活動報告



女性貯蓄貸付グループのメンバーと話し合うダネス(奥左)とサマン(奥右)

カンボジア

ダネス・ヒム (2010年卒)
サマン・チャン (2019年卒)

女性たちと
信頼関係を築く

トロパン アンビル村は、首都プノンペンから北西へ約2時間行ったところにあります。そこがサマン・チャンの故郷であり、美しいコミュニティです。サマンと彼女の家族は村で店を営み、最近、食堂も始めました。彼女の強い起業家精神は、村他の女性たちを鼓舞しています。

サマンは、2013年にこの村で女性の貯蓄貸付グループを立ち上げたダネス・ヒムからアジア学院を紹介されました。サマンが持つ天性のリーダーシップの才能を見て、彼女をアジア学院に推薦したのです。現在はサマンがグループを管理していますが、ダネスは今も関わりを持ち、定期的な訪問を行っています。

村の女性たちは、養鶏や古着屋の経営といった小さな収入創出プロジェクトのために、自分たちのお金を出し合って資本を作り、メンバーに貸すことから始めました。成功の背景には、サマンとダネスが女性たちと信頼関係を築くのに費やした、多くの時間がありました。そこは単なる金融機関ではなく、彼女たちが「人生の悩みや悲しみ、喜び、困難を分かち合う」場所なのです。メンバーの一人が言いました。「私たちは同じ心、同じ思い、同じ目的を持っています。私たちはお互いを心から大切にしているのです。」



バムルン(中央)が活躍した農民団体の旗を共に掲げるジェンヴァン(左)

タイ

カヌエンニット・ポルカヤン
(通称: ジェンヴァン、2009年卒)
バムルン・カヨタ (1989年卒)

有機農業の継承

タイ東北部にあるジェンヴァンの村を歩いていると、ほとんどの村人が彼女に声をかけてきます。その多くは農民が、藍染めや手織りなどの伝統工芸品を作っている人たちです。ジェンヴァンは彼らの市場探しや、顧客から注文を得るのを手伝っています。

何人かの村民は、彼女がボランティアとして運営に携わっている代替農業ネットワーク(AAN)に所属し、従来の米の単作から多品目の有機農法に切り替えました。彼らの農場では米はもちろん、ドリアン、パパイヤ、ナマス、さらには食用の(!)カエル、バッタ、カタツムリまで、興味深い農産物をたくさん見つけることができます。有機農業に切り替えた理由を尋ねられた時、ある農家は「以前は米の相場に翻弄され、いつも貧しかった」と答えました。今、彼は家族と力を合わせて、市場だけでなく自分たちのためにも食料生産を行い、幸せに暮らしています。

ジェンヴァンは、叔父でありアジア学院卒業生で有力な活動家だったバムルン・カヨタからアジア学院を紹介されました。バムルンは自分よりも他人を優先する人で、農民の権利のために奮闘し、大規模な抗議活動を組織して政府の農業政策を改善してきました。彼はまた、有機農業の強力な推進者でもあり、今日見られる有機農場の多くはその擁護の結果だと言えます。73歳になった現在、彼は引退を表明しており、ジェンヴァンは叔父の終わりなき物語を1冊の本にまとめたいと考えています。

※バムルン・カヨタは2024年6月に逝去しました。

会計報告

Finances

貸借対照表

資産の部	2022 年度末	2023 年度末
流動資産	66,737,913	59,390,944
固定資産	738,668,829	698,406,858
有形固定資産	688,273,875	652,703,863
特定資産	49,998,234	45,307,465
その他の固定資産	396,720	393,480
資産の部合計	805,406,742	757,797,802

負債の部		
流動負債	84,231,471	49,011,296
固定負債	117,064,735	132,136,990
負債の部合計	201,296,206	181,148,286

基本金の部		
基本金の部合計	1,216,499,839	1,148,559,948

純資産の部		
翌年度繰越収支差額	-612,389,303	-571,910,432
純資産の部合計	604,110,536	576,649,516

負債及び純資産の部合計	805,406,742	757,797,802
--------------------	--------------------	--------------------

資金収支

前年度繰越支払資金	53,355,709
翌年度繰越支払資金	50,051,897

詳しくはアジア学院ウェブサイトをご覧ください
<https://ari.ac.jp/downloads/>

監査報告

学校法人アジア学院寄付行為第7条の規定に基づき、
2023年度の事業および会計の状況について監査した結果、
適性に執行されたものと認めます。

2024年5月8日
学校法人アジア学院

大久保知宏

監事：大久保知宏

村田 榮

監事：村田榮

事業活動収支

事業活動収入の部	2023 年度予算	2023 年度決算
教育活動収入		
学生生徒等納付金	30,720,940	36,709,592
手数料収入	52,000	17,200
寄付金	94,473,958	94,227,606
経常費等補助金	0	1,340,000
付随事業収入	25,707,500	28,794,029
雑収入	5,786,000	6,830,272

教育活動収入計	156,740,398	167,918,699
教育活動外収入計	0	25,032
特別収入計	0	801,209
事業活動収入計	156,740,398	168,744,940

事業活動支出の部		
教育活動支出		
人件費支出	89,770,396	85,706,415
教育研究費	39,985,083	39,571,380
管理経費	68,620,628	70,050,389
減価償却費	42,573,191	43,414,490

教育活動支出計	198,376,107	195,328,184
教育活動外支出計	937,482	877,773
特別支出計	0	3

事業活動支出計	199,313,589	196,205,960
----------------	--------------------	--------------------

50周年記念事業関連収支

収入の部	2023 年度決算
50周年記念事業特別寄付金	
国内	19,040,637
海外	2,946,695
合計	21,987,332

支出の部	
50周年記念事業特別支出	
ホールキャンバスプロジェクト	3,446,927
式典関連	571,516
その他	2,748,006
合計	6,699,306

収支差額	15,288,026*
-------------	--------------------

*収支差額は、2024年度以降、50周年事業引当特定資産とし、将来の事業展開のために充当する。

貸借対照表

2023年度末時点での資産は約7億5,800万円で前年度よりも約4,760万円（内減価償却約3,560万円）減少しました。将来への備えとしての退職給与引当特定資産300万円、施設設備維持引当特定資産約240万円、合計約540万円の積立では例年通り継続することができました。

一方負債の部は約1億8,100万円で前年度よりも約2,000万円減少しています。これは借入金返済（538万円）、学校債償還（330万円）の合計868万円の返済や、復興事業修繕引当金（農業研修棟外壁塗替え他、806万円）減少等によります。

資金収支

2023年度末の翌年度繰越支払資金は50,051,897円でした。

50周年事業の一環としてのオフグリッドハウス建設（約225万円）、温暖化対策としての豚舎及び飼料部屋の換気システム設置工事（約116万円）や女子寮前排水溝設置工事も行いました。その他、バス購入（373万円）、農業研修棟の外壁塗替え（約600万円）等の支出もありましたが、50周年募金などの収入増加等の要因が加わり、前年度繰越支払資金との差額は約330万円減となりました。

事業活動収支

事業活動収入 約1億6,800万円
(前年約1億4,840万円、予算約1億5,670万円)

【主な収入】

・学生生徒納付金：約3,670万円
(前年4,950万円、予算約3,070万円)



みなさまの開発途上国に対する思いを
アジア学院に託してください！

アジア学院で学んだ卒業生たちが自らの手で、公正かつ平和で健全なコミュニティを作っていきます。

郵便振替

振込口座：郵便振替 0034-8-9758
口座名義：学校法人 アジア学院

銀行振込

足利銀行 西那須野支店
口座番号：112403（普通預金）
口座名義：学校法人 アジア学院

オンライン／クレジットカード

<https://ari.ac.jp/donate>



農村指導者研修プログラム・カリキュラム

<p>講義一覧 （* 特別講師）</p>	
<p>指導者論</p> アジア学院の指導者論 サーバント・リーダーシップ アジア学院の歴史と建学の精神 参加型学習行動法 自律学習 プレゼンテーション技術 時間管理法 ファシリテーション技術 相互フィードバック技術 宗教と農村生活	<p>荒川 朋子</p> 荒川 朋子、大柳 由紀子
<p>報告書作成指導</p> 農村指導者論 衛生管理と女性の健康 平和と和解 ファンレイジング、 尊厳ワークショップ 足尾銅山鉱毒事件と田中正造	<p>荒川 朋子</p> 荒川 朋子、大柳 由紀子、阿部・チャタジー・マンシ
<p>持続可能な農業・技術</p> 有機農業 野菜・作物概論 稲作技術 畜産概論 養鶏技術 家畜衛生と疾病管理 化学農業の危険性 熱帯における自然農業 生産者と消費者の提携 バイオガスワークショップ 森林・里山の可能性 農業技術実習 畜産技術実習 肉加工実習	<p>荒川 治</p> 荒川 治、櫻井将伸
<p>開発論</p> 栄養概論 環境と開発 ジェンダー論 ローカライゼーション 共助組合論 那須疎水と西那須野開拓の歴史 気候変動教育 日本の有機農業運動 日本の差別問題	<p>荒川 治</p> 荒川 治、櫻井将伸
<p>卒業生セミナー</p> 組織的持続可能性	<p>荒川 治</p> 大谷 崇
<p>日本語・日本文化</p>	<p>ティモティ・B・アパウ</p> 大柳 由紀子、阿部・チャタジー・マンシ
	<p>ティモティ・B・アパウ、</p> デボラ・シナガ* (90 年卒、96 年 TA・インドネシア、パタック・プロテスタント・キリスト教会)
	<p>阿部・チャタジー・マンシ</p> ジョナサン・マッカーリー、ティモティ・B・アパウ、
	<p>デボラ・シナガ* (90 年卒、96 年 TA・インドネシア、パタック・プロテスタント・キリスト教会)</p> 阿部・チャタジー・マンシ
	<p>スティープン・カッティング</p> キャシー・フローディ
	<p>ホームズ 恵子* (アガベ・ワールド)</p> シェリー・デレオン* (アジア学院北米後援会)
	<p>ジェフリー・メンセンディーク* (桜美林大学)</p> 坂原辰男* (元 NPO 田中正造大学)
	<p>有機農業実習</p> 野菜作物:ぼかし肥作り、堆肥作り、土着菌の採取と活用、天恵緑汁、魚のアミノ酸資材、水溶性カルシウム、自然農薬、粉殻くん炭、自家採種、練り床を利用した苗作り
	<p>畜産：養豚（人工授精、出産、去勢）、養鶏（育雛、人工ふ化）、家畜衛生、飼料配合、発酵飼料作り、発酵床式畜舎</p> 肉加工：ソーセージ、ハム、ジャーキー
	<p>農場管理活動</p> グループによる農場管理(野菜作物栽培および畜産管理)
	<p>フードライフワーク（自給自足のための農作業および給食準備）</p> グループリーダーシステム
	<p>その他の研修</p> コミュニティ・ワーク（田植え、稲刈り、森林管理など）、内的成長を促す活動（朝の集会、コンサルテーション、リフレクションペーパー、振り返りの日）、口頭発表、収穫感謝の日、国際交流プログラム、見学研修、農村地域研修旅行、西日本研修旅行など
	<p>その他の研修</p> コミュニティ・ワーク（田植え、稲刈り、森林管理など）、内的成長を促す活動（朝の集会、コンサルテーション、リフレクションペーパー、振り返りの日）、口頭発表、収穫感謝の日、国際交流プログラム、見学研修、農村地域研修旅行、西日本研修旅行など
	<p>江村 悠子</p> 杉崎 由佳
	<p>安藤 香</p> 井澤 彩子 (11月～) 山下 崇
	<p>ルイバ・ヴェロ</p> 岡田 英里
	<p>佐藤 裕美</p> 福島 昌代 井澤 啓

研修でお世話になった方々（敬称略、順不同）

<p>農業関連見学・研修先</p> 【栃木県】 帰農志塾、まんまる農園、ドンカメ、陽だまり農場、古谷農産、民間稲作研究所 【埼玉県】 金子宗郎、田下隆一、桑原衛 【山形県置賜地区】 渡部務・美佐子、菅野芳秀、長井市レインポープラン推進協議会、基督教独立学園、黒沢蔵、高畠共生塾（秋津ミチ子）、JA山形おきたま農業組合、川西町役場（原田俊二町長） 【山形県庄内地区】 加藤鉦一、相馬一広、志藤正一、佐藤直樹、庄内協同ファーム、JA庄内たがわ営農農政課、荘内教会保育園（矢沢俊彦）、鶴岡市藤島庁舎エコタウン室、小野寺喜作、みます元氣村、鶴岡市立農業経営者育成学校 SEADS 【岩手県】 酒匂徹	<p>見学先・交流団体</p> 【栃木県】 那須野ヶ原博物館、足尾銅山鉱毒事件学習（旧松木村跡、足尾製錬所跡）、渡瀬川遊水池、宇都宮北高校、西那須野幼稚園 <p>西日本研修旅行</p> 【東京都】 農村伝道神学校 【静岡県】 聖隷クリストファー中・高等学校、聖隷学園、山中忍 【三重県】 愛農学園農業高校 【大阪府】 大阪 YMCA、NPO 釜ヶ崎支援機構、野宿者ネットワーク、関西沖縄文庫、コリア NGO センター、(教) 希望ヶ丘教会 【広島県】 広島平和記念資料館 【熊本県】 大澤菜穂子、からたち、水保病歴史考証館、(一般) きぼう・未来・水保、吉本哲郎
	<p>(教) 日本基督教団（一般）一般社団法人</p>

コミュニティメンバー一覧

<p>職員</p>	
<p>荒川 朋子</p> 荒川 治	<p>校長</p> 副校長、教育部長、フードライフ課（野菜・作物）
<p>大柳 由紀子</p> 佐久間 郁・ヴェロ	<p>副校長、教務主任（教務課長）</p> 事務局長（総務課長）
<p>ジャック・リクテン</p> キャシー・フローディ	<p>国際関係課</p> 国際関係課
<p>阿部・チャタジー・マンシ</p> 篠田 快	<p>教務課（学生募集、教務）</p> 教務課（学生募集、50 周年事業）
<p>スティープン・カッティング</p> 田仲 順子	<p>教務課（卒業生アウトリーチ）</p> 教務課（図書）
<p>ティモティ・B・アパウ</p>	<p>教務課（共同体生活）、</p> フードライフ課（畜産）
	<p>チャブレン、教務課（共同体生活）</p> 教務課（共同体生活）
	<p>農場長（フードライフ課長）</p> フードライフ課（野菜・作物）
	<p>フードライフ課（畜産）</p> フードライフ課（FEAST（給食・食育））
	<p>フードライフ課（FEAST（給食・食育））</p> 総務課（支援者サポート・総務補佐）
	<p>総務課（会計）</p> 総務課（庶務）
	<p>総務課（庶務）</p> 募金・国内事業課長（教育プログラム・那須セミナーハウス主事）
	<p>募金・国内事業課（那須セミナーハウス補佐・管理人）</p> 募金・国内事業課（教育プログラム）(～12月)、
	<p>フードライフ課（野菜・作物）(1月～)</p> 募金・国内事業課（販売）
	<p>募金・国内事業課（食品加工）</p> 募金・国内事業課（広報・支援者サポート）
	<p>ブランディング、ID システムデザイン、メディアデザイン</p> メディアデザイン、印刷物編集

<p>藤嶋 トーマス 逸生（～6月）</p> 八木沢 淳	
<p>佐藤 裕美</p> 福島 昌代 井澤 啓	

<p>通いボランティア</p> フードライフ課（農場）：林 哲、渡部幸人、藤吉求理子、ミシェル・ベイリー、黒田雪奈・貴美・楓奈	
<p>フードライフ課（FEAST）：木村 裕子、高村 京子、荒川 千衣子、エファ・シミン・ルーシ</p> 募金・国内事業課（販売）：猪俣 美恵、柏谷 重明、杉田 万由子、堀内 紀江、三宅 隆史、	
<p>クリスティ・アパウ、東 千尋、並木 レベッカ、小西 小百合、小西 恵祐</p> 総務課（営繕）：清水 益夫、伏見 卓、井出 幸男	
<p>総務課（経営）：早坂 孝行</p> 総務課（庶務）：平埴 望	

<p>ベクレルセンター（放射能測定室）</p> 西川 峰城、藤本 渉平（兼販売）	
---	--

<p>長期滞在ボランティア</p> 玉城 大和、豊留 にこ、デ克蘭・ミード、塚本 結基（以上農場）、ヘニング・ナルパッハ、アーロン・ベアラーゲ（以上農場、国際関係）、ヤニック・フリードリッヒ、佐藤 晴輝、大谷来未（以上農場、広報）、ラツセル・オーナー、ジョナサン・ベンツコファー（以上 FEAST、農場）、エミ・ハーナー、セリーナ・ショイレンブラント、ナターシャ・アーノルド（以上 FEAST、学生募集）、マリー・ケスレア（FEAST、卒業生アウトリーチ）、クレア・オーナー（国際関係、FEAST、農場）、山下 萌（FEAST、50 周年事業）、酒匂 榛（農場、50 周年事業）、メーガン・ラッペル（FEAST、教務）、アンジェリン・チョン（広報、国際関係、農場）	
---	--

<p>役員</p>	
<p>理事長</p> 山本 俊正	<p>元関西学院大学教授</p>
<p>副理事長</p> 門脇 英晴	<p>(株) 日本総合研究所特別顧問</p>
<p>理事</p> 荒川 朋子	<p>アジア農村指導者養成専門学校校長</p>
<p>後宮 敬爾</p> 小海 光	<p>日本基督教団霊南坂教会牧師</p> 公益財団法人 ウェスレー財団代表理事
<p>佐藤 範明</p> 永田 佳之	<p>元ホテルサンバレー那須顧問</p>
<p>矢萩 栄司</p> 山根 正彦	<p>聖心女子大学現代教養学部教育学科教授</p>
<p>星野 正興</p>	<p>日本聖公会下館聖公会牧師</p> (学) 香川栄養学園 元常務理事
<p>元日本基督教団愛川伝道所牧師</p>	

<p>監事</p> 大久保 知宏	<p>藤井産業（株） 執行役員 総務部長</p>
<p>村田 榮</p>	<p>那須ワイズメンズクラブ</p>

<p>評議員</p>	
<p>荒川 治</p> 荒川 朋子	<p>アジア農村指導者養成専門学校副校長</p> アジア農村指導者養成専門学校校長
<p>粟谷 しのぶ</p> 飯塚 拓也	<p>弁護士、豊島総合法律事務所</p> 日本基督教団関東教区宣教部委員長、
<p>伊藤 幸史</p> 岩谷 幸子	<p>竜ヶ崎教会牧師</p> カトリック新潟教区司祭
<p>宇野 三恵子</p> 海老根 智仁	<p>全国友の会副代表、横浜友の会</p> 聖心会日本管区管区長
<p>大柳 由紀子</p> 門脇 英晴	<p>(株) レジェンド・パートナーズ取締役会長</p> アジア農村指導者養成専門学校副校長
<p>菊地 功</p> 佐久間 郁・ヴェロ	<p>(株) 日本総合研究所特別顧問</p> カトリック東京大司教教区大司教
<p>千 相鉉</p> 永田 佳之	<p>(学) アジア学院事務局長</p> 在日大韓基督教会札幌教会主任牧師
<p>潘 炯旭</p> 星野 正興	<p>聖心女子大学現代教養学部教育学科教授</p> 日本基督教団西那須野教会牧師
<p>丸谷 一耕</p> 山下 崇	<p>元日本基督教団愛川伝道所牧師</p> 特定非営利活動法人木野環境代表理事
<p>山根 正彦</p> セラジーン・ロシート	<p>(学) アジア学院職員</p> (学) 香川栄養学園 元常務理事
<p>横手 仁美</p>	<p>NGO/NPO コンサルタント</p> セカンドハーベスト・ジャパン CEO、
	<p>元国連 WFP 協会事務局長・理事</p>

<p>荒川 治</p> 荒川 朋子	<p>アジア農村指導者養成専門学校副校長</p> アジア農村指導者養成専門学校校長
<p>粟谷 しのぶ</p> 飯塚 拓也	<p>弁護士、豊島総合法律事務所</p> 日本基督教団関東教区宣教部委員長、
<p>伊藤 幸史</p> 岩谷 幸子	<p>竜ヶ崎教会牧師</p> カトリック新潟教区司祭
<p>宇野 三恵子</p> 海老根 智仁	<p>全国友の会副代表、横浜友の会</p> 聖心会日本管区管区長
<p>大柳 由紀子</p> 門脇 英晴	<p>(株) レジェンド・パートナーズ取締役会長</p> アジア農村指導者養成専門学校副校長
<p>菊地 功</p> 佐久間 郁・ヴェロ	<p>(株) 日本総合研究所特別顧問</p> カトリック東京大司教教区大司教
<p>千 相鉉</p> 永田 佳之	<p>(学) アジア学院事務局長</p> 在日大韓基督教会札幌教会主任牧師
<p>潘 炯旭</p> 星野 正興	<p>聖心女子大学現代教養学部教育学科教授</p> 日本基督教団西那須野教会牧師
<p>丸谷 一耕</p> 山下 崇	<p>元日本基督教団愛川伝道所牧師</p> 特定非営利活動法人木野環境代表理事
<p>山根 正彦</p> セラジーン・ロシート	<p>(学) アジア学院職員</p> (学) 香川栄養学園 元常務理事
<p>横手 仁美</p>	<p>NGO/NPO コンサルタント</p> セカンドハーベスト・ジャパン CEO、
	<p>元国連 WFP 協会事務局長・理事</p>

<p>特別顧問</p>	
<p>遠藤 抱一</p>	<p>元アジア学院職員</p>



2023年度 卒業生 ()内は送り出し団体名

農村開発科

- バングラデシュ**
1 ミトウン・ボイラージ (社会福祉青年協会)
2 ヴェランソ・ベンジャミン・リティカ (農村改革センター)
- カメルーン**
3 クラリス・スイニユイ・プヴェン (農村女性開発センター)
- エクアドル**
4 ジョセリン・カロリナ・コヤゴ・タジャナ (エクアドルの子どものための友人の会)
- ハイチ**
5 ルイ・テア・ピエール (ハイチの会)
- インド**
6 タムレイチャン・ズイミック (地域教育センター・ソサエティ)
7 マイディンルン・ガンマイ (先住民女性・子ども基金)
- インドネシア**
8 ヨハネス・アリ (ベルナドウス・パルス教会)
9 アンジェラ・ラトナ・サリ・ピウ (無原罪の聖マリア教区)
10 イェニ・エリア・トガトロツ (パタック・プロテスタント・キリスト教会)
11 ジャコブ・シリングリンゴ (列島先住民連合)
12 ジョントラ・マルトゥア・プルバ (インドネシア・プロテスタント・キリスト教会)
- リベリア**
13 ダークボン・ドロケレン (教育推進プログラム復興)
14 ヘレナ・ココ・ベン (ヴォインジャマ自由ペンテコステ教会保健センター)
15 メアリー・イラトゥン (合同メソジスト農村・農業開発プログラム)
- ミャンマー**
16 グー・ター・フー (ワインモー・リス・バプテスト連盟)
17 フン・ジョー・セツ (ナガ・パブリック・オーガナイゼーション)
18 ソー・セー・ムー (ポケイ記念神学校)
- ネパール**
19 パー・マウン・リア (農村開発のための地域連合)
- ナイジェリア**
20 サンギタ・チョウダリー (シスターホーム・オーガナイゼーション)
21 カリヤ・ビルキス・デイヴィッド (ウィニング・オール福音教会女性会)
22 ポウダディ・レイモンド (カトリック教会女性会連合)
- シエラレオネ**
23 アミナタ・コンテ (シエラレオネ福音ルーテル教会)
- ウガンダ**
24 アロン・ネビン・オティム (聖ユダ孤児院)
- ザンビア**
25 リチャード・トウムウエシゲ (聖パトリック総合開発センター)
26 ジョフリー・ンバウェ (エキユメニカル開発基金)

研究科

- インド**
27 マリオ・ジョン・ポール・レベロ (フランシスコ・ザビエルの宣教会 ソサエティ・オブ・ピラール)
- 日本**
28 須田 愛結
29 中島 のぞみ